



ベトナム人材との協働で拓く未来



ビジネスパートナーとしての 更なる発展を期待

日本での労働力不足が懸念される中、外国籍人材の採用が増加している。中でもベトナム人材は全体の4分の1を占め、国籍別では最も多い。今後、日本企業の発展や成長ひいては日本の未来を拓くために、外国籍人材の労働力は必要不可欠になりつつある。今回は、日越外交関係樹立50周年にあたる2023年の幕開けとしてベトナム人材をテーマに取り上げ、文化や習慣が違う中でも円滑にビジネスを進めるためのポイントについて多様な立場から語り合ってもらった。

【インタビューは、日本とベトナムをオンラインで繋いで実施】

司会 | 大高茂樹茨城新聞社筑西支社長



第9回 SEKISHO JOBFAIRの様子

フェアは素晴らしい人材と 繋がれる貴重な機会



河辺 真理子

フォージテックカワベ株式会社
代表取締役社長



フォージテックカワベHP

初めにベトナムとの関わりについてお聞かせください。

河辺 フォージテックカワベ株式会社は創業85年を迎える部品メーカーの会社です。茨城県城里町にある約2万坪の工場、熱間鍛造、冷間鍛造、機械加工、熱処理と一通貫で完成品を生産しております。きっかけは、2018年の3月に茨城県内の企業を対象としたベトナムへの視察会でした。そのときに会った技能実習生が日本で働きたいという意欲に満ちていて大きな可能性を感じました。当時、国内採用が難しい状況でしたのでベトナム採用を検討する後押しにもなりました。

上村 2014年に茨城県でベトナム視察団が結成され、自治体や民間企業をメンバーとする100名ほどの調査団の中に弊社の関正樹社長も参加しました。その後、海外調査チームが社内で作成され、私もメンバーとして参画することになりました。アジアを中心に調査・検討を重ね2016年に具体的にベトナムへの進出を決めた際、現地赴任し、駐在員事務所や現地法人SEKISHO OVIETNAMの設立に携わりました。以後ジョブフェアの開催や人材育成に関わり2019年に帰任し現在に至ります。

ニユさんは日本で就職をされましたが、理由をお聞かせください。

ニユ 私は2017年に関商事の社員として来日し、昨年ベトナムに戻り現地法人SEKISHO OVIETNAMで勤務をしています。日本に就職した理由は、子どもの頃から日本製品の質の高さをよく耳にしていたし、アニメやマンガなどの日本文化にも興味があった

めです。大学で日本語を勉強し始めてから日本で仕事をしたいという思いが強くなり、就職サイトやホームページで情報を収集していた時に「セキショウジョブフェア」の情報を見つけ参加しました。それが縁で関商事に入社し、日本へ就職することになりました。

上村さん、いま話に出ました「セキショウジョブフェア」について簡単に説明していただけますか。

上村 「セキショウジョブフェア」は2016年から開催しています。ベトナムの優秀な学生を採用したい日本企業と、日本で働きたいベトナム人学生とのマッチングイベントです。ベトナム理系大学トップのハノイ工科大学を中心に、近隣約20大学の学生が参加しています。理系の学生がメインですが、ハノイ大学やハノイ国家大学で日本語や文化を学んだ学生なども参加しています。運営は、学生など企業説明会や面接会の実績を持つグループ会社やセキショウキャリアアプラスとSEKISHO OVIETNAMが中心となり行なっています。

河辺さんとニユさんはそれぞれ違う立場で「セキショウジョブフェア」に参加されていますが、感想をお聞かせください。また、上村さんにはこのイベントの近年の展開状況について伺います。

河辺 2018年11月に行なわれた「セキショウジョブフェア」を見学しましたが、スキルを持った学生が多く参加している印象を受け、そこで次年度の参加を決定しました。当初は、ベトナムの理系トップ大学の学生が弊社に興味を持ってくれるのが不安でしたが、結果として76名の方にエントリーシートを提出していただきました。これはとても嬉しい反応でした。面接を実施し、その場で3名の学生の採用を決定しました。なお、昨年11月に行なわれた同フェアにも参加し、高度人材の2名に内定を出しております。

現在では、高度人材3名・技能実習5名・特定技能1名の計9名が在籍し、入国待ちを含めると計13名のベトナム人と雇用関係を結んでいます。素晴らしい人材と繋がることができ「セキショウジョブフェア」に参加して良かったと心から思っています。日本国内だと中小企業に関心を持つ学生が少ないのも事実なので、この機会はとても貴重でしたね。

ニユ 私をはじめ、日本に就職したいと思うベトナム人学生は多いと思います。しかし、これまでの日本企業への就職活動においては高いレベルの日本語力を求められる事が多く、それが課題になっていました。一方「セキショウジョブフェア」には、日本語教育をサポートしてくれる企業が多数参加していることで、学生も日本企業へ就職するチャンスが広がると思っています。
上村 2016年は20社、2019年には39社と、年々参加企業が増加

しており、ベトナムで開業される日本企業を対象としたジョブフェアでは最大級の規模になりました。このことから日本企業とベトナム学生を繋ぐというニーズが拡大していることを実感しています。

学生向けの施策としては、ハノイ工科大学の中で日本語教室を開催しています。先程ニユさんからの話にもありましたが、日本語による意思疎通の技術が向上しますので、結果、マッチングの場においても活きてきます。またサッカー部の支援を通じて交流の場を広げる活動も行なっており、大学との信頼関係の構築にも繋がっていると感じています。

日本での学びを活かして ベトナムとの懸け橋に



レティ ニユ

SEKISHO VIETNAM Co.,Ltd
General Manager



SEKISHO VIETNAM HP

河辺さん、ベトナムの人材を受け入れた当時の会社の状況はいかがでしたか。

河辺 正直な話、入社前には少し抵抗感を示す社員もいました。しかし一緒に働き出して、物分りの早さや礼儀正しさ、受け答えの姿勢など、彼らの良さをすぐに認識し仲間として受け入れていました。またベトナム人材の皆さんは、休日においても自主学習を行なうなど、学びの姿勢がとても真摯です。そういった姿が日本人社員にも刺激となり、会社内に良い雰囲気をもたらしてくれています。

ニユ 関商事に入社して様々なことを学びました。特に日本での生活を気にかけて、こまめに声をかけてくれる同僚・上司の思いやりに心から感謝しました。日本人の思いやりは世界で唯一のものだと感じます。仕事の面においては、日本で仕事しなくては分からない社会人としての基礎的な知識・マナーなどを学び、私の人生にとって有意義な経験になるとともに、大きなステップアップになりました。

上村 一番感じるのは時間感覚です。日本人は約束した時間の厳守が基本ですが、ベトナム人は30分までは間に合ったという感覚です。ですので、日本の企業で働くには5分前集合の必要性を教えています。これは生まれ育ってきた環境・価値観の違いなので、しっかりと伝えれば問題なく改善してくれました。日本の文化や常識を誠実に教えてあげれば、みんな理解してくれそうです。あとはこちらの意思を確実に伝えるために、絵を描いたり、図で説明した

りもします。また反対に私たちがベトナムの文化や習慣を理解することも重要だと思っています。お互いが理解し、尊重し合いながら歩み寄ることが良い関係を築くコツだと感じています。

河辺さんには、外国籍人材と共に働くポイントや大切にしなければならぬこと、ニユさんには、これから日本企業で働くベトナムの方々に対してのアドバイスをそれぞれお聞かせください。

河辺 より多くのコミュニケーションを取るために食事や共有するなどの近い存在になる努力をしています。それが理由なのかは分かりませんが、彼らの日本語がどんどん上手になってくるのを実感します。またベトナム人は家族をとっても大切にしています。私は日本に来て仕事を共にする上で、彼らの家族に会いとして受け入れられますよという意思を彼らのベトナムの家族に伝えたい。それが安心してつながり信頼感も生まれると思うています。

ニユ 日本語能力の向上は大切ですが、日本人が日常よく使う言葉や表現を理解することで、色々なことがスムーズに進むようになります。また文化の違いを理解して合わせることも重要だと思います。先ほど話が出ましたが時間感覚の違いや、日本人の相手を気遣った会話からニュアンスを理解することでコミュニケーションも円滑になると感じています。

外国籍人材と共に働く企業の未来像について、それぞれの立場からお答えください。

河辺 ベトナムの方と働いて約4年が経ちますが、日本人・外国人は関係なく「人」として、フォージテックカワベで働く仲間という共通の認識になりました。これからの日本企業はグローバルで多様な人材を採用するべきだと考えています。そして外国籍人材の方も経験

最後に今までの話を受けて、今後ベトナム人材との協働で拓く未来についての展望を上村さんから聞かせてください。

上村 ベトナムは勢いのある国ですので、これからは著しく発展していくものだと思います。そのような変化の中で、ベトナムの方から持つ魅力的に感じてもらえる会社にモデルチェンジしていくことが日本企業にもより求められると思います。今は技能実習や高度人材として日本に来て働いていますが、将来的には一緒に共同ビジネスを取り組むパートナーとしての関係になるのではないのでしょうか。これまでは海外に縁がなかった企業も、今後は優秀な高度外国人材を通してベトナムに限らず世界中にネットワークを作り広げていくという考え方が企業も率先して取り組んでいくことが重要だと思います。

